

用語解説

ア行

■ IOT (Internet of things)

世の中に存在する様々なものにインターネット通信機能を持たせることによって、あらゆるものがインターネットを通じてつながる技術のこと。

■ ICT (Information and Communication Technology)

通信技術を使って人とインターネット、人と人が繋がる技術のこと。教育場面においては電子教材を活用した授業の実践やコンピュータによる情報管理などが考えられる。

■ 赤木名城跡

琉球列島の奄美地域を代表する中世城郭。奄美大島北部西岸にある笠利湾を望む丘陵上に立地し、奄美地域屈指の規模を持つ。全体の構造からみて石垣が発達した琉球より日本の影響が見られることが注目される。この時期の琉球日本・奄美との政治・軍事を考える上で極めて重要な遺跡である。

※ 平成 21 年 2 月 国指定文化財

■ アクティブ・ラーニング

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材の育成に向け、従来の教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた学習法の総称。

学修者が能動的に学修することにより、認知的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのディベートグループ・ディスカッション等も効果的なアクティブ・ラーニングである。

※ 汎用⇒多方面に広く用いること。

■ 奄美市いじめ防止基本方針

平成 25 年 9 月に「いじめ防止対策推進法」が施行されたことを受け、奄美市立学校において、いじめによる重大事態が発生した場合、その事態に対処し、奄美市教育委員会が執るべき措置、その他の事項について調査審議する付属機関。

■ あまみ授業セミナー

鹿児島大学教育学部附属小学校・附属中学校の教諭を講師として招聘し、市内小・中学校の教諭に対して、模擬授業や授業研究、指導講話を行い、教科指導力を高める。

■ 「あまみっ子」ジョイントプラン

公立幼稚園・小学校・中学校が、幼児児童生徒についての情報や学力向上に向けた取組を共有し、実践する年間を通じた計画的な連携。

■ 「あまみっ子」すくすくプラン

学力の定着と向上を図るために、小学校5・6年生で1学級36人以上在籍する学校に教員を加配して35人以下学級を編成する市単独の講師配置事業。

■ 「あまみっ子」すこやかプログラム

児童生徒の発達課題を人間成長の役に立たせるカウンセリングの一手法である。

「構成的グループ・エンカウンター」を各学校の実績に応じた形で教育課程に取り入れ、その際の指針及び具体的な活動等を示したものを。

■ 泉家住宅

明治時代初期に建築された古い別棟型民家(分棟型民家ともいわれる)であり、座敷棟の「おもて」と台所棟の「とおごら」からなる。「おもて」は、寄棟造・トタン葺で、トコをもつ八畳の座敷とそれを囲む3つの小さな部屋からなる。「とおごら」は、入母屋造トタン葺で、台所の機能を果たす建物で、2部屋からなる。

「とおごら」の南西には4本の円柱を持つ高倉(高床の倉)が建ち、その南には井戸がある。屋敷の周囲には土塁が巡り、その上には、防風林が茂っている。泉家住宅は、奄美地方で建築年代が19世紀に遡る数少ない民家の一つであり、「おもて」と「とおごら」の両棟が高倉とともに残っている貴重なものである。

※ 平成6年7月国指定文化財

■ 異年齢混合保育

異年齢の幼児を同一学級に編成して行う保育。

■ インクルーシブ教育

障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ仕組みであり、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育支援を、通常の学級で行う教育のこと。

■ ウエットシステム

厨房の作業環境として、床に水をまく、常に床が濡れている状態。

■ 宇宿貝塚

奄美大島の北端に位置する縄文時代後期から中世にかけての複合遺跡である。

縄文時代の遺構は、宇宿上層式土器を伴う住居跡2基、埋葬跡、面縄東洞式土器を伴う住居跡1基が発見された。宇宿上層式の住居は約10m離れているが、ともに一辺が2mあまりの方形の住居跡で周囲を礫で囲っている。面縄東洞式の住居跡は、宇宿上層式の住居跡の下層から発見された2mの円形の敷石住居跡である。床面は大小の礫を平らに並べてあり、中心付近に深さ30cmの船底状の炉が設けられ、木炭片や有機物が検出された。

中世の遺構は、砂丘の最高地点で墓壇が発見されたが、調査の結果、中世の母子の埋葬跡であることがわかった。成人女性の遺体は、仰向けで体を伸ばした状態で埋葬され、両膝の間に新生児の遺体が埋葬されていた。成人女性の骨の耳から後頭部にかけて、46点のガラス製の小玉などが首にかけられた状態で出土した。

※ 昭和61年10月国指定文化財

■ AI(人口知能)

Artificial Intelligence の略。

記憶・推論・判断・学習など、人間の知的能力をコンピュータ上で実現する様々な技術やソフトウェア、コンピュータシステム。

■ ALT(外国語指導助手)

Assistant Language Teacher の略。

日本人教師を補佐し、生きた英語を子どもたちに伝える英語が母語の外国人。

87年から国が実施している語学指導等を行う「外国青年招致事業」

■ SNS

ソーシャルネットワーキングサービス

(Social Networking Service) の略。フェイスブックやツイッターなど登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのこと。

■ 応能負担制

各自の能力に応じて負担すること。特に医療・介護・福祉サービスで、所得に応じて対価や保険料を支払うこと。

力行

■ 学習指導要領

学校教育法施行規則に基づき、文部科学省が定めた教科等の目標やおおまかな教育内容のことで、各学校で「教育課程」(カリキュラム)を編成する際の基準となるもの。

■ 鹿児島学習定着度調査

県内の小・中学生の基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等に関

する学力状況を把握するとともに、学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握するために鹿児島県教育委員会が実施する調査。

■ 鹿児島県人権教育・啓発基本計画

平成17年以降の鹿児島県の人権教育啓発施策を総合的かつ具体的に推進するための指針。(平成16年12月策定)

■ 学習支援ボランティア

市内の希望校に派遣される、昼休み・放課後等に補修学習等を行うボランティア。

他に単独調理場方式・親子方式・デリバリー方式がある。

■ 家庭学習60・90運動

家庭学習時間を、学年に応じ、少なくとも小学校では60分間、中学校では90分間を目安に確保し、学校で学んだことの復習など、基礎学力を定着させるための児童生徒の主体的な取り組みを促進する施策のこと。

■ 高度情報化社会

情報が諸資源と同等の価値を有し、それらを中心として機能する社会。

■ 子ども子育て支援新制度

平成24年8月に成立した「子ども・子育て支援法」、「認定子ども園法の一部改正」、「子ども・子育て支援法及び認定子ども園法の一部改正の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の子ども・子育て関連3法に基づく制度。

■ 小湊フワガネク遺跡

奄美大島中部の太平洋岸、砂丘上標高9mに立地する。6～7世紀代に属する貝製品の生産を行った生産遺跡である。遺跡の中央部では、床面に炉を有した堀立柱建物遺跡4棟が、遺跡の北端部では、墓壇1基が確認され、食用にされたと考えられる貝殻・獣骨魚骨なども多数出土し、当該期における生活の様子が明らかになった。また、夜光貝製貝匙、イモガイ製貝札等の貝製品が、大量の未製品と貝殻破片、そして、敲石や磨石と共伴して出土したことから、ここが貝製品の製作場所であり、製作工程も明らかになった。このように、小湊フワガネク遺跡は、6～7世紀代における奄美地域の生活の復元を可能にするとともに、夜光貝等の貝製品生産を行ったことを明らかにしたという点で極めて重要である。また、当該期の本州から九州にかけては、古墳時代から古代へ移行する時期であるが、そうした政治的な影響のほとんど及ばなかった地域の社会を解明する上でも重要である。

※ 平成22年8月国指定文化財

■ 小湊フワガネク遺跡出土品

小湊フワガネク遺跡出土品は、奄美大島の中中部、太平洋に面した砂丘上の遺跡から出土した資料の一括である。遺跡からは、大量の夜光貝と、それを加工して貝匙を製作する各工程の資料が出土しており、6～7世紀頃にこの地で集中的な貝匙生産が行われていたことが窺える。これに加えて、貝札・貝玉等の多種多様な貝製品や、多数の貝玉とガラス児玉が副葬された5世紀頃の墓壇も発見されている。これらは、南島地域において集中的な貝製品生産を行った工房的

性格の強い遺跡の出土品として、当時の交易を考える上でも極めて貴重である。

県内で、史跡と出土品の両方が国指定を受けるのは、上野原遺跡(霧島市)、広田遺跡(南種子町)に次いで3件目で、大島地区で重要文化財(考古資料)の指定は初めてとなる。

サ行

■ 指導主事派遣

学校の要請に応じて、校内研修や各種研修会に指導主事を派遣し、指導助言を行うことによって、指導方法の改善を図り、確かな学力の定着に向けた教諭の資質向上や学校の取組を支援する。

■ 城間トフル墓群

南西諸島における特徴的な墓制の北限をなすもので、隆起したビーチロックの小丘陵に9基からなる横穴墓群を形成している。また、それぞれが前庭、墓道、墓室といった構造をもつ横穴を構築しており、かつ、墓群の全てが、ほぼ完全な形で残っている。

城間トフル墓群は、風葬及びその後の洗骨再葬に使用された、いわゆる風葬墓の基本的な形式をもっており、かつ、遺骨及び祭祀用品の違存状況も良好であり、学術的資料としても高い評価を有するものである。

※ 平成5年3月県指定文化財

■ 授業改善5つの方策

「教師主導型、講義型の授業からの脱却」「学習のしつけやルール」「授業充実の3ポイントの確実な実施」「机間指導の充実」「板書の工夫」等、教員の授業力向上に向けた奄美市独自の共通実践事項のこと。

■ 習熟度別学習

学校などで授業の際に児童生徒の学習の効率を上げるため、児童生徒をその教科の習熟度に応じて、複数の学級をいくつかのクラスに編成し直す方法。一つの学級で別々のコースで学習する方法が挙げられる。

■ スクールソーシャルワーカー

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待等児童生徒の問題行動等へ対応や児童生徒及び保護者等の相談に応ずるなど、福祉機関等関係機関とのネットワークを活用して援助を行う者のこと。

■ スクールカウンセラー

学校における教育相談体制の充実を図るため、児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有する者のこと。

■ 生涯学習講座

書道・ダンス・茶道・生け花等の文化活動を通じて、市民がそれぞれの趣味や特技を生かしながら、自己研鑽に努め、「心豊かで多彩な人材と文化・交流の創造」を目指す場。

■ 情操教育

感情や情緒を育み、創造的で個性的な心の働きを豊かにするための教育及び道徳的な意識や価値観を養うことを目的とした教育の総称。

■ 情報セキュリティーポリシー

企業などの組織における情報資産の情報セキュリティー対策について、総合的、体系的かつ具体的に取りまとめたもの。

■ 情報通信技術革新

情報通信技術の進歩及びそれによってもたらされる価格低下による、情報機器の活用分野の広がり、企業LANやインターネットによる情報機器同士のネットワーク化、これらによる経済社会面での、様々な変革。

※「平成13年版労働経済の分析」

(厚生労働省)

■ 情報モラル

人が情報を扱う上で求められる道徳、特に情報機器や通信ネットワークを通じて、他者と情報のやり取りするにあたって、他者や自らを害することがないように身に付けるべき基本的な態度や考え方のこと。

情報社会を生きぬき、健全に発展させていく上で、すべての国民が身に付けておくべき態度や考え方。

■ 情報リテラシー

情報を自己の目的に適合するように使用できる能力。

情報を主体的に選択、収集、活用、編集、発信する能力と同時に、情報機器を使って論理的に考える能力が含まれる。

■ スクールカウンセラー

教育機関において、心理相談業務に従事する心理職専門家のこと。

■ スポーツアイランド構想

「スポーツで癒す島」を基本理念と定め、恵まれた自然、人情などをベースに奄美をスポーツマーケットとして情報発信し、これに対する受入を新たなリーディング産業として位置づけようとする構想のこと。

■ スポーツ基本法

平成 23 年 8 月 24 日施行

昭和 36 年に制定されたスポーツ振興法を 50 年ぶりに全部改正し、スポーツに関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的としている。

■ スポーツ推進委員

当該市町村のスポーツ推進のため、スポーツ基本法（平成 23 年 8 月 24 日施行）第 32 条の規定に基づき、教育委員会規則の定めるところにより、スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡・調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導、助言を行う非常勤職員。

■ 生物多様性

生物に関する多様性を示す概念。

生態系・生物群系または、地球全体に多様な生物が存在することを指す。

生態系の多様性、種多様性、遺伝的多様性から構成される。

■ 全国学力・学習状況調査

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育委員会に関する継続的な検証改善サイクルを確立するための調査。

■ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において、自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図る取組を通じて体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

さらに、各学校における児童生徒の体力や生活習慣、食習慣、運動習慣を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てるための調査。

■ 総合型地域スポーツクラブ

日本における生涯スポーツ社会の実現を掲げて1995年より文部科学省が実施するスポーツ振興施策の1つで、幅広い世代の人々が、各自の興味関心、競技レベルに合わせて、様々なスポーツに触れる機会を推進する地域密着型のスポーツクラブをいう。

■ Society5.0

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

狩猟社会(Society1.0),

農耕社会(Society2.0),

工業社会(Society3.0),

情報社会(Society4.0),

第5期科学技術基本計画において我が国が目指す未来社会の姿として初めて提唱された。

夕行

■ 耐震化

強い地震でも建造物が倒壊、損壊しないように、補強することやそのような構造に造りかえること。

■ 単独自校調理場方式

各学校に給食調理施設を整備し、調理した給食を当該学校の児童生徒が喫食する方式。他にセンター(共同調理場)方式・親子方式・デリバリー方式がある。

■ 知識基盤社会

変化が激しく、常に新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが、求められる社会。

こうした社会を生きぬく資質として、子どもたちにとって課題となっている思考力・判断力・表現力を高めることが求められている。

■ 知・徳・体

1996年の「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」という諮問に対する中央教育審議会の「これからの子どもたちに必要となるのは、いかに社会が変化しようとして自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性と考える。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。こうした資質や能力を变化の激しいこれからの社会を【生きる力】と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要である」という第1次答申が、教育の目的の1つとなった。

※生きる力⇒知・徳・体のバランスの取れた力

■ 中1不登校未然防止アクションプラン

児童が小学校から中学校に入学した際の急激な環境(学習面、生活面、友人関係、先生との関係など)の変化に戸惑い、不登校にならないように計画的に行う7つ(情報収集、人間関係づくり、学習面の改善、相談体制の充実など)のプランのこと。

■ 定額徴収制

幼稚園保育料などを一律の額で徴収すること。

■ デジタルデバイド(情報格差)

コンピュータやインターネットなどの情報技術を利用したり,使いこなしたりできる人とそうでない人の間に生じる貧富や機会,社会的地位などの格差。

個人や集団の間に生じる格差と地域間や国家間で生じる格差がある。

■ 特別支援教育

障がいのある幼児,児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという観点に立ち,幼児,児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し,その持てる力を高め,生活や学習上の困難を改善又は克服するため,適切な指導及び支援を行うこと。

■ 特別支援教育コーディネーター

学校の特別支援教育を推進するために,校内で指名された関係機関や医療機関との連携や関係者との連絡・調整を行う教員のこと。

■ 特別支援教育支援員

幼稚園,小・中学校,高等学校において障害のある園児,児童生徒に対し,食事,排泄,教室の移動補助等学校における日常生活動作の介助を行ったり,発達障害の園児,児童生徒に対し学習活動上のサポートを行ったりする者のこと。

■ ドライシステム

給食施設などの調理場の床を乾燥した状態で使うように設計した施設。

ナ行

■ ネットワーク犯罪

主にコンピュータネットワーク上で行われる犯罪の総称。

ハ行

■ ビジョンアンケート

「共に生きる教育」の奄美市教育ビジョンにある本市の教育行政施策の四本柱について,各学校の児童生徒の実態を把握するために市内の小学校6年生と中学校3年生にとるアンケートのこと。

■ PDCAサイクル

物事を進める上において,計画と実行,結果の収集と評価を継続的に行って,その内容を改善しながら次のステージへ進めていくこと。

Plan(計画) Do(実行)

Check(評価) Act(改善)

■ 一人一研究授業

各学校において,教諭は年間一人一回,学習指導案を作成し,研究授業・授業研究を行うことを通して,授業力の向上を図る。

■ 標準学校規模

学校教育基本法施行規則で、標準的な学級数を定めており、小学校 12～18 学級（1 学年 2～3 学級）、中学校 12～18 学級（1 学年 4～6 学級）と規定されている。（特別支援学級の学級数を除く）

※ 小学校は 41 条で規定、同条の規定は、79 条で中学校に準用

■ フレッシュ研修

新任教員及び任用 2 年目の教員に対して、教育公務員特例法第 21 条及び第 23 条の規定に基づき、現職研修の一環として新規採用後の 3 年間の研修を実施し、教員としての使命感と実践的指導力を養い、幅広い知見を得させるとともに、地域の一員としての自覚を確立するための研修。

■ 防災教育

様々な危険から幼児児童生徒の安全を確保するために行われる安全教育の一部をなすもの。防災教育のねらいは、次の 3 つにまとめられる。

・自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。

・地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。

・自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全運動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

マ行

■ マイライフ・マイスポーツ運動

「すべての県民が、それぞれの関心や適正に応じて主体的・継続的にスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、スポーツを通じて支えあうことのできる活力ある社会づくり」を目的に鹿児島県教育委員会が平成 25 年度から推進している運動。

■ モバイル情報端末

小型軽量で持ち運ぶことのできる情報端末装置のこと。

小型ノートパソコン・スマートホン・タブレット端末など。

ヤ行

■ 幼稚園就園奨励費

私立幼稚園について、保護者の負担軽減と幼稚園教育の振興に資するため、入園料及び保育料を所得に応じて減額し、または免除する措置。

■ 有害情報

主に青少年が、その情報に接することによって健全な発達・育成を阻害する虞があると考えられているコンテンツ。

※コンテンツ⇒提供されている情報やデータそのものを指す。

参照

コトバンク

Weblio辞書

IT用語辞典 e-Words